

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771700907
法人名	株式会社旭看護婦家政婦紹介所
事業所名	旭グループホーム
所在地	香川県三豊市高瀬町上高瀬5388番地262 (電話)0875-72-3544

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年5月13日	評価決定日	平成21年6月10日

## 【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 10月 16日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	14人 常勤 8人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.9人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 平屋
------	------------

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	7,010円+実費	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

### (4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	77歳	最高	95歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	三豊市立西香川病院 氏家歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間の静かな場所に創設された当グループホームは、母体である看護婦家政婦紹介所の長年の介護実績から打ち出された理想と夢が具体像として示されたものである。従って、管理者や職員の思い双方が十分に理解し合い職員間の人間関係も非常に良いものである。職員の交代状況(交代がほとんどない)と職員勤務時間表(昼食前の人数が多い)からみると明白である。その成果が、利用者の明るく落ちついた表情に表れていると思う。また協力医療機関に認知症専門医が勤務していることもあり、認知症医療及びケアの連携には非常によい関係性を築いている。訪問看護・訪問診療・入院等と安心して療養継続できるしくみである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価の意義を管理者、職員は理解しているが、前回の外部評価と今回の自己評価に対する連動性がない箇所が多い。外部評価に対する改善ができていない点はあるが、自己評価に反映できていない。ホーム全体としてPDCAサイクル「計画」「実施」「評価」「改善」に準じた外部評価の取り組みが必要と思われる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を管理者、職員は理解しているが、前回の外部評価と今回の自己評価に対する連動性がない。職員一人ひとりが外部評価に対する改善を実施しているが、自己評価に記載されていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、2カ月に1回、地域包括支援センター・民生委員・家族・職員が集まり、サービスの実際、評価への取り組み状況等について報告している。今後、ホーム以上に地域を主体とした課題も取り入れ活発な意見交換が望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の意見を聞く為に意見箱の設置や家族会の開催を定期的実施している。利用者一人ひとりに応じて家族等に報告している。毎日から3日に1回来訪する方がほとんどであるが、転倒及び熱等の急変時は家族に連絡を取るしくみがある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の催し等へは可能な限り利用者と参加している。ホームも「旭ふれあいまつり」等を開催し地域交流の場として発展させている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念について、1、私たちは、御利用様の立場にたって家庭的に落ち着いた雰囲気の中で安心して自分らしい生活をしていただける様にお手伝いいたします。2、私たちは地域の方々と協力仕合えるグループホーム(以下ホーム)づくりを目指している。と明文化され掲示されている。理念に沿うサービスを提供している。	○	自己評価において、`幸福`であると想いつづける空間作りに対する目標を掲げているのであれば、理念についても`幸福`の一文を明記したホームの独自の理念を検討いただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を短縮文言にし、毎日朝の申し送り時に唱和し、理念の実践に励んでいる。職員間で再確認し意見交換し高めあう努力をしている。	○	自己評価において、管理者は`幸福`であると想いつづける空間作りに対する目標を掲げている。管理者と職員が理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる過程の中で、理念について、幾分違いが生じる為あらたに独自の理念を作り、管理者と職員が共有し実践できるものを取り組んでもらいたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の催し等へは可能な限り利用者と参加している。ホームも「旭ふれあいまつり」等を開催し地域交流の場として発展させている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を管理者、職員は理解しているが、前回の外部評価と今回の自己評価に対する運動性がない箇所が多い。外部評価に対する改善点はあるが、自己評価に反映できていない。	○	職員→管理者→自己評価→外部評価→管理者及び職員の流れを作り、項目ごとに職員会議で検討協議の必要性がある。ホーム全体としてPDCAサイクル「計画」「実施」「評価」「改善」に準じて外部評価の取り組みが必要と思われる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、2カ月に1回、地域包括支援センター・民生委員・家族・職員が集まり、サービスの実際、評価への取り組み状況等について報告している。今後、ホーム以上に地域を主体とした課題も取り入れ活発な意見交換が望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の主催する行事は参加している。キャラバンメイトの講師として協力している。ホーム行事には市担当者の参加及び意見交換を実施している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者一人ひとりに応じて家族等に報告している。毎日から3日に1回来訪する方がほとんどであり、転倒及び発熱については家族に連絡を取るしくみがある。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等の意見を聞く為に意見箱の設置や家族会の開催を定期的実施している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員数は、利用者が困らないように十分な数の職員が常駐している。認知症ケア研修を受講し質を保つようにしている。ゆとりを持って離職し、問題なく仕事の継承をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修は自己申告で実施している。研修案内を回覧し管理者は職員を段階的に育成するように年度計画を立てるよう今後企画している。ホームとして研修費負担と時間確保をしている。各自研修後は復命書や職員会議で発表している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護サービス事業者協議会や三豊市介護サービス事業者の研修会に参加し事業所間の情報交換や交流をはかっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院から入所する利用者が多く、この場合は入院中に入所担当職員が訪問し抵抗なく入所できるように人間関係を整えている。利用者及び家族に対する細かい心配りを持っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との関係づくりとして、「共に生きる」を発想の原点とし一緒に何かを成し遂げていくうちに、同胞意識を深めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日常生活の会話の中で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者台帳は一人一台帳とし、フェイスシート・認定調査票及び診断書・アセスメント・ケアプラン・モニタリング実践記録票・ケアプラン評価表・介護支援経過・介護サービス日課記録表・体重測定記録と記録は機能的に整備され、また部門ごとに意見交換することで利用者一人ひとりの介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間や一人ひとりの日常変化に応じた介護計画の見直しを実施している。職員会議にて見直し期間もふまえた会議を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域からの必要性もふくめ、事業所の多機能性を活かした支援を実施している。手芸教室、料理教室、習字教室等を内部公開し実施している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症ケアの観点からも協力医療機関との連携及び受診支援を得ている。また、歯科・皮膚科と適切な医療を受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一人ひとりの家族・病院との方針のもとターミナルケアの実践をしている。今までに酸素・点滴治療に対するケアの実践はある。今後、マニュアルづくりと職員の研修に力を入れる。三位一体のチームの強化を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間で協議しながらプライバシーの確保に努めている。ことばかけや対応はできている。	○	個人情報保護の取り扱いについては、必要に応じた情報提供が求められるのが必須であり、重要事項説明書等に明文化する必要がある。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者と家族に密な関係をきづき、一人ひとりの今後の人生がその人に応じた暮らしが達成できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむ過程を食材の用意から提示(近くからヨモギを採取等)しており、料理、配膳、食事、片付け、自発性と協同作業の中で支援している。食事内容・量もすばらしく費用も低賃金であり、続けてもらいたい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員は、毎日、入浴できるよう健康管理に留意して対応している。身体が不自由でも職員の介助と福祉用具で対応できている。温泉水を導入利用したいと考えている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、習字、ストレッチ、歌、ゲーム、朝のペダルトレーニング滑車と日常生活で利用者が自発的にできる雰囲気醸し出している。また、散歩も職員が付き添い、各人の趣味趣向を把握し支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩に加えて、利用者の希望により、買い物に便乗して花を観賞しに行ったり、大衆演芸やイベント事に併せてドライブしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けていないが玄関が二重構造であり、外玄関の鍵を掛ける場合がある。夜間は用心の為に施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策に関して、火災は、消防署での講義・実践等の避難演習を実施している。地震は、専門企業での講義・実践等の避難演習を実施している。緊急連絡網及び事故発生の手順等マニュアルを作成し常時掲示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック・水分補給記録等、一人ひとりの状態に応じた支援ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間として最低4カ所用意してある。一人ひとりの生活空間を考えながら工夫している。また季節に合わせた掲示や展示物がある。耳の遠い利用者の場合は、自室のテレビ音が大きくなるので色々な配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と利用者・家族が話し合い、使い慣れたもの等を活かして、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。職員の試みとして、利用者の視線を合わせ心情を汲み取るように努めている。		